



南部御城印プロジェクト

南部御城印プロジェクトとは

趣旨

南部御城印プロジェクトは、南部氏ゆかりのお城が存在する市町村教育委員会などによる連携です。御城印と呼ばれる来城記念紙の販売を通し、お城の認知度向上・観光振興・地域活性・研究推進に貢献すること目指しています。御城印売り上げの一部は、お城の維持管理や整備・活用にあてられます。

連携参加城館

- | | |
|----------------|---------------|
| ①種里城(青森県鱒ヶ沢町) | ②浪岡城(青森県青森市) |
| ③野辺地城(青森県野辺地町) | ④七戸城(青森県七戸町) |
| ⑤根城(青森県八戸市) | ⑥聖寿寺館(青森県南部町) |
| ⑦三戸城(青森県三戸町) | ⑧九戸城(青森県二戸市) |
| ⑨姉帯城(岩手県一戸町) | ⑩久慈城(岩手県久慈市) |
| ⑪盛岡城(岩手県盛岡市) | ⑫高水寺城(岩手県紫波町) |
| ⑬片寄城(岩手県紫波町) | ⑭鍋倉城(岩手県遠野市) |
| ⑮土沢城(岩手県花巻市) | ⑯花巻城(岩手県花巻市) |
| ⑰金澤城(秋田県横手市) | |

最新情報

南部お城めぐりフェイスブック

<https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject/>

南部お城めぐりガイド

<https://hcm-hit.github.io/nanbu-castles-tours/>

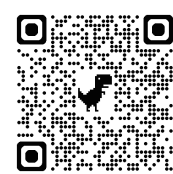
リーフレットなどのダウンロードはこちら(八戸市博物館HP)

<https://hachinohe-city-museum.jp/goods/>

事務局

南部御城印プロジェクト事務局(八戸市博物館)

0178-44-8111 haku@city.hachinohe.aomori.jp



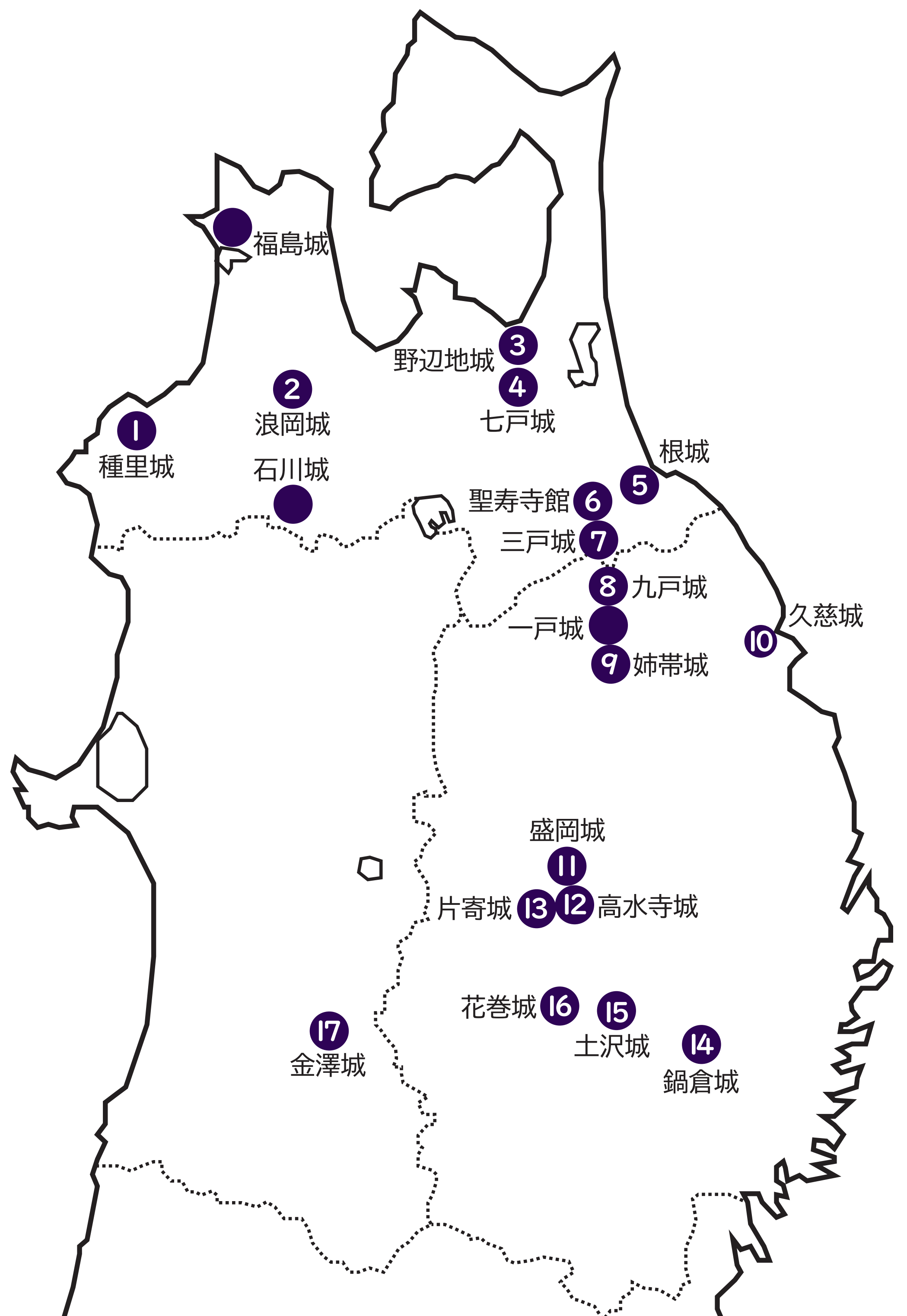
城あとと見学の手注意

国内には多くのお城のあとが残されています。

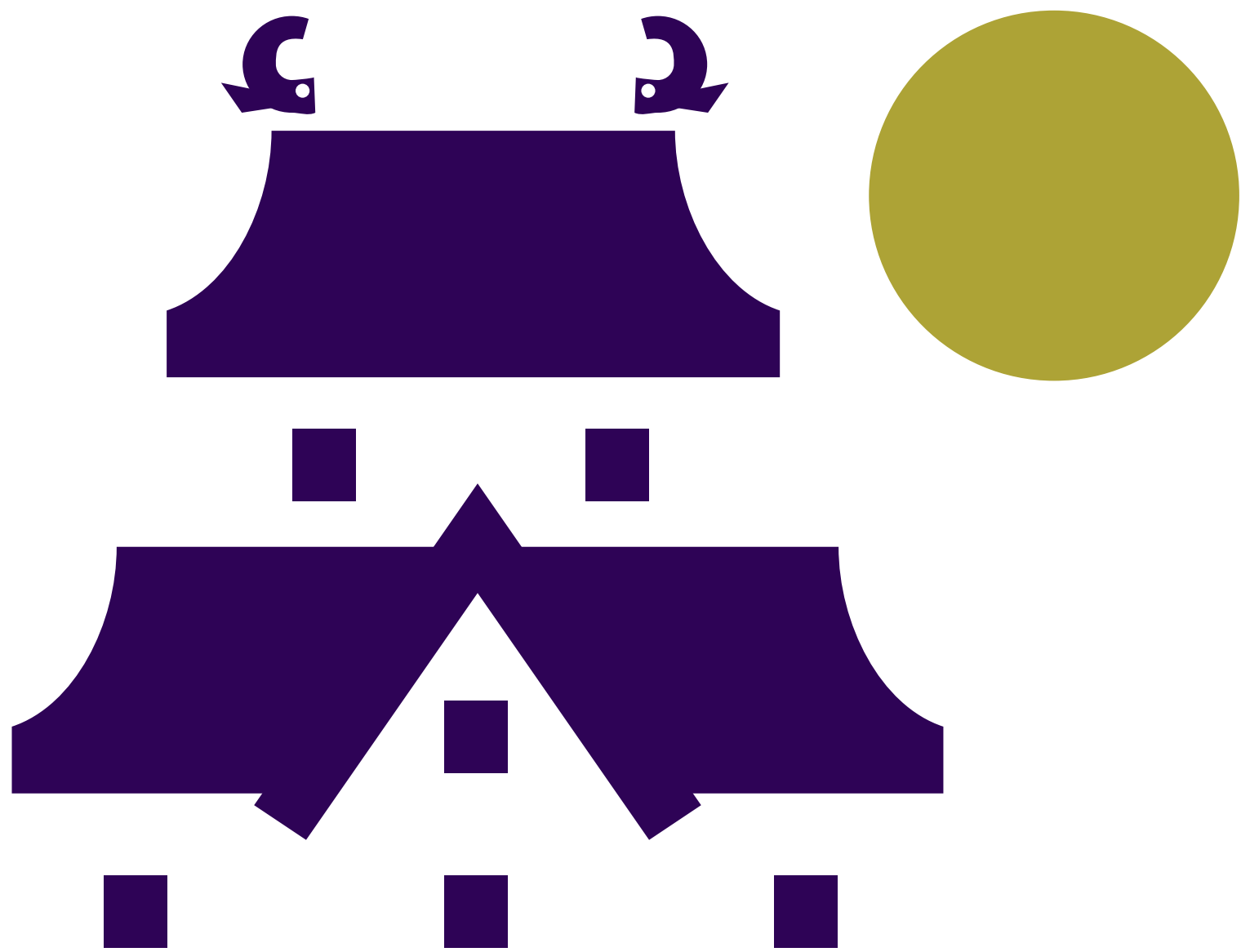
状態が良い城あとには、現在も石垣・土塁・堀・建物などが残されており、往時の姿に思いをはせることができます。

皆さんも、ぜひ城あとに足を運び、「三日月の丸くなるまで南部領」と謳われた長く・広い南部の歴史をご体感ください。

なお、いくつかの城あとは整備中です。見学が難しい場合がございますのでご注意ください。また、城あとが私有地の場合もございます。見学は十分配慮のうえお願いいたします。



南部御城印プロジェクト



南部氏とお城の歴史

1

2

3

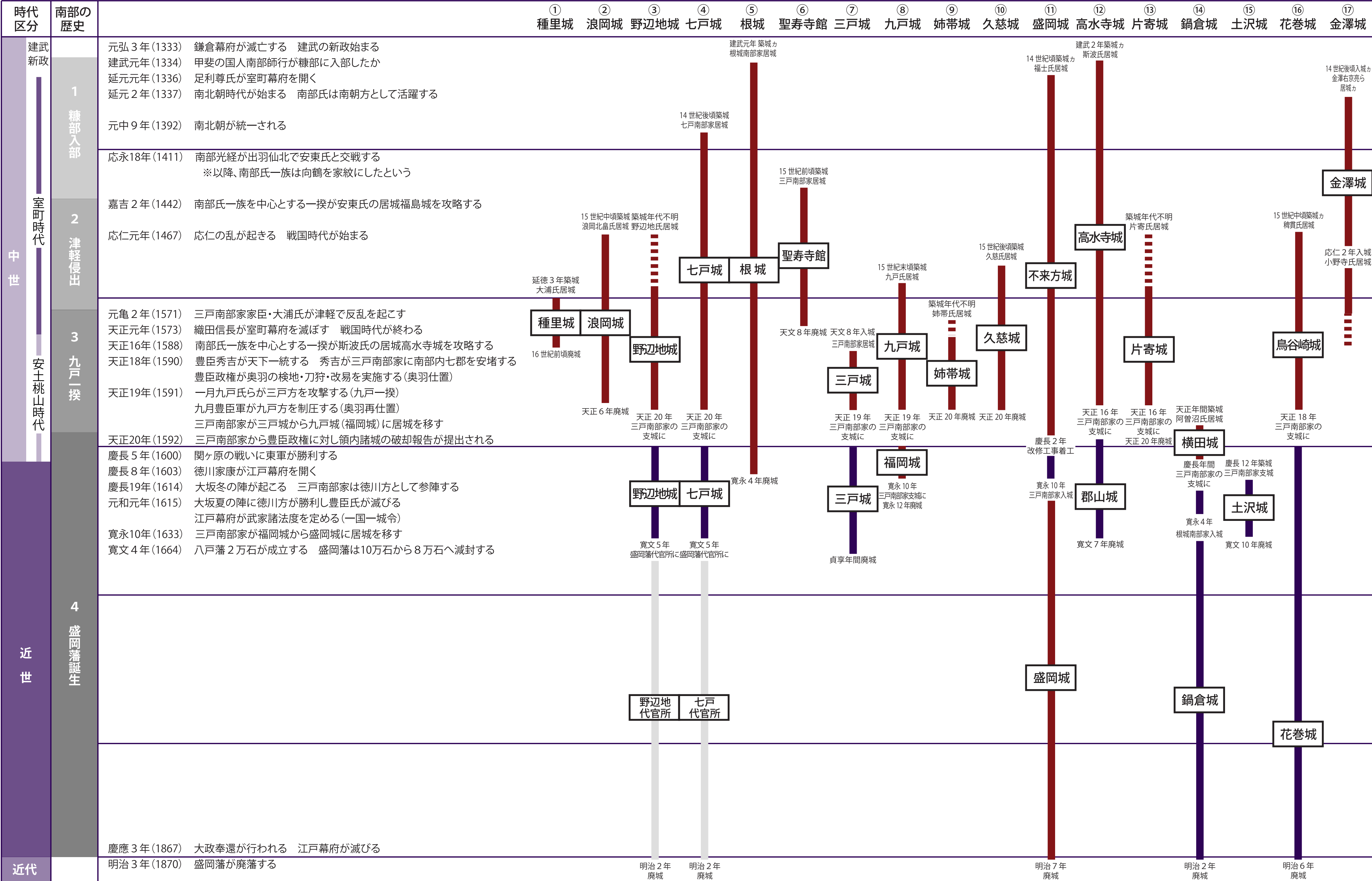
4

糠部入部
甲斐国南部郷（現山梨県南部町・身延町）を治める南部氏は、14世紀頃に糠部（現青森県東部から岩手県北部）に移り住むと、郡内に分散し、それぞれ領主として城を構えた（④七戸城・⑤根城・⑥聖寿寺館・①戸城）。これら南部氏一族は、分家や近隣の国衆と一揆を結び、広く北東北を治めた（②浪岡城・③野辺地城・⑧九戸城・⑩久慈城・⑰金澤城）。

津軽侵入
15世紀中葉以降、南部氏一族を中心とする一揆は隣郡への侵攻を進め、嘉吉2年（1442）には安東氏を攻略し、津軽（現青森県西部）を掌握した（①種里城・石川城）。
しかし、16世紀後半になると、三戸南部家家臣・大浦氏が反乱を起こし、津軽を実効支配した。

九戸一揆
南部一族を中心とする一揆はその後も侵攻を進め、天正16年には斯波氏を攻略した（⑫高水寺城・⑬片寄城）。この頃になると一揆の中でも三戸南方（⑦三戸城・⑤）と九戸方（⑧・③・④・⑨姉帯城・⑩）の対立が顕在化し、両者は強く争った（天正19年（1591）・九戸一揆）。
豊臣軍の加勢を得た三戸南部家は、九戸方を倒し、名実ともに大名になった。

盛岡藩誕生
大名となった三戸南部家は、南に拡がった領地（盛岡藩）に合わせるように本拠を⑦三戸城から、⑧九戸城（＝福岡城）・⑪盛岡城へ移した。
中世城館の多くは廃城したが、一部は支城や代官所（③・④・⑦・⑧・⑫・⑭鍋倉城・⑮土沢城・⑯花巻城）に転用され、近世も利用された。



本表赤線＝独立領主の居城 青線＝支城 灰線＝代官所